

「自立支援、介護予防又は重度化防止及び介護給付の適正化に関する取組と目標」の自己評価

団体名	鳴門市
-----	-----

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2017 実績	年度	2018	2019	2020	2018～2020年度 取組内容	自己評価や今後の 課題・対応策など
いつまでも健康でいきいきと暮らしていける								
「いきいきサロン」の開設	集会所等の身近な場所で定期的に集まり、健康づくりや交流を深めながら気軽に楽しく過ごせる住民主体の通いの場「いきいきサロン」を支援する。	45か所	目標	55か所	65か所	75か所	(2018) サロン開設の支援を行うほか、世話人同士の交流や意見交換をする「おしゃべり会」、運営を担う人材を養成する「いき百サポートリーダー養成講座」等を開催。 (2019) テレビ広報「いきいきサロンの旅」で各サロンを紹介しその魅力を伝えることにより開設の推進・周知啓発を行った。また「いき百サポートリーダー養成講座」を継続して開催した。 (2020) 「いき百サポートリーダー養成講座」「いき百中級リーダー養成講座」の継続実施、「いき百サポートリーダーフォローアップ研修」の実施を行った。	自己評価：△ コロナ禍の影響を受け、2か月間活動を休止した。開設数は目標まで届かなかったが、各種養成講座、フォローアップ研修を開催し、既存サロンへの支援を継続し行った。
			実績	56か所	58か所	58か所		
「いきいきサロン」参加人数	集会所等の身近な場所で定期的に集まり、健康づくりや交流を深めながら気軽に楽しく過ごせる住民主体の通いの場「いきいきサロン」を支援する。	800人	目標	850人	950人	1000人	(2018) サロンの魅力づくりのための「いきいき先生」の派遣や、参加者同士の交流を図る「いきいき百歳大交流大会」等を開催。 (2019) 「いきいき先生」メニューの充実を図るとともに、今年度も「いきいき百歳大交流大会」を開催するなど「いきいきサロン」を支援をした。 (2020) 「いきいき百歳大交流大会」の継続開催や体力測定時以外にもリハビリ職による巡回指導を行うなどサロンへ参加を促す取り組みを実施。	自己評価：○ サロン参加人数は目標値までは届かなかったが、参加者数は前年度に比べ微増ではあるが増やすことができた。今後も引き続き周知啓発や既存サロンへの支援を継続し、また各地域包括支援センターや暮らしのサポートセンター等とも連携を図る。
			実績	924人	977人	980人		

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2017 実績	年度	2018	2019	2020	2018～2020年度 取組内容	自己評価や今後の 課題・対応策など
「いきいき先生」派遣項目の 充実	高齢者にもっとも身近な介護 予防の拠点化に向け、職能団 体との連携により各サロンで 様々な介護予防教室等が受け られる「いきいき先生」を派 遣する。	6種類	目標	9種類	10種類	11種類	(2018) 理学療法士、作業療法士、栄養 士、歯科衛生士、保健師、主任ケ アマネジャーといった専門職をサ ロンへ派遣する「いきいき先生 (講師)」のメニューに社会福祉 士による「成年後見制度につい て」の講座を追加した。 (2019) 認知症サポーター養成講座を追加 するとともに、メニューの細分化 や変更により、魅力ある「いき いき先生」の実施につなげた。 (2020) 参加者からのニーズに応じてメ ニューを追加・変更し、「交通安 全」「消費者被害」等のメニュー を追加した。	自己評価：○ 目標より前倒しでメニュー数が増加 しているが、メニュー数だけではな く、求められる講座内容やより介護 予防へつなげるメニューなど更なる 充実を図る。
			実績	9種類	16種類	22種類		
「いきいきサロン」で提供す る介護予防活動の充実	住民が主体的に介護予防に取り 組める環境づくりやリハビリ テーション専門職との連携 による、効果的な介護予防事 業を展開する。	1	目標	2	3	3	(2018) すべてのサロンで実施している 「いきいき百歳体操」に加え、体 の運動をしながら頭の運動をして いく体操「認知症予防運動」を導 入した。 (2019) 「第3回いきいき百歳大交流大 会」において「くっぼちゃんの健 口体操」と題した口腔体操の紹介 や「いきいき百歳体操認知機能改 善編」のお披露目などを行いサロ ン参加者に周知した。 (2020) 口腔体操は、コロナ禍では実施が 難しいため、「フレイル予防」に 視点をおいたアンケートを実施し た。	自己評価：○ 「くっぼちゃんの健口体操」を全サ ロンで導入したが、コロナ禍では実 施が不十分であった。
			実績	2	2	3		

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2017 実績	年度	2018	2019	2020	2018～2020年度 取組内容	自己評価や今後の 課題・対応策など
「いき百サポートリーダー養成講座」の既受講者向け講座の開催	様々な経験や特技を持つ高齢者自身を先生とするサロン等の横断的な取組みや、サロンの活性化を支援する。	-	目標	開催			(2018) 「いき百サポートリーダー養成講座」の既受講者を対象として、「フォローアップ講座」(H30.8/28)と、「中級リーダー養成講座」(H30.9/10)を開催した。 (2019) 「いき百サポートリーダー養成講座」(H31.12/12.16)、「フォローアップ講座」(R2.1/8)を開催した。中級リーダーは、サロンで実技実習を行った。 (2020) 「いき百サポートリーダー養成講座」(R2.11.12/11.25)、「フォローアップ研修」(R2.12.16)、「中級リーダー養成講座」(R2.12.9)サロンでの実技指導を実施。	自己評価：○ いき百サポートリーダー養成講座、フォローアップ講座の継続実施。中級リーダー養成後はサロン補助として携わっていただき、更なるサロンの活性化に取り組む。
			実績	開催	開催	開催		
生活支援サポーター養成講座修了者	市独自の訪問型サービス（緩和型A）や住民主体の生活支援サービスの担い手となる「生活支援サポーター養成講座」を実施し、認知症や介護技術などを体系的に学ぶことで様々な担い手による多様な魅力ある生活支援サービスを創出する。	52人	目標	65人	80人	95人	(2018) 高齢者の生活支援に関する講義や、実際にサポーターとなり、サービスを提供するための知識と技術を学ぶ「生活支援サポーター養成講座」を実施した。 (H31.1/22～23) (2019) 「生活支援サポーター養成講座」を実施。(R2.2/3～4) (2020) 「生活支援サポーター養成講座」を実施。(R3.2/16～17)	自己評価：△ 目標は未達成であるものの、サポーター数は年々増加している。今後は訪問型サービス（緩和型A）のほか暮らしのサポートセンターなど生活支援提供の場へ紹介するなど担い手の活躍先の確保に取り組む。
			実績	60人	65人	69人		
口腔機能に係る短期集中C型サービスの新設	口腔機能改善やフレイルに対応するため、関係する職能団体等の協力を得ながら、新たに口腔機能に係る短期集中C型サービスの導入を進める。	-	目標	新設	実施	実施	(2018) 歯科衛生士会の協力を得て、短期集中的に口腔機能改善を行う「くらしいきいき口腔サポート」(C型)を導入した。 (2019) 第3回いきいき百歳大交流大会で「くっぼちゃんの健口体操」を紹介し、口腔機能改善について周知啓発を図るとともに「くらしいきいき口腔サポート」を継続実施した。 (2020) コロナ禍の影響があり利用者なし。	自己評価：△ くらしいきいき口腔サポートを導入したが、コロナ禍の影響が受け利用者は無かったが、各地域包括支援センターにおける対象者の抽出のほか他の事業との連携を図るよう支援する。
			実績	新設	実施	実績なし		

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2017 実績	年度	2018	2019	2020	2018～2020年度 取組内容	自己評価や今後の 課題・対応策など
地域で支え合いながら心豊かに暮らしていける								
第2層協議体設置数	生活支援コーディネーターと第1層協議体の活発で有機的な活動を促進しつつ、各地域における第2層協議体の設置を支援する。	-	目標	2か所	3か所	4か所	(2018) 大津地区、大麻町板東地区、撫養町川西地区で第2層協議体が設立され、生活支援コーディネーターと連携し、地域における課題や地域資源の発掘を進めた。	自己評価：△ 新たな第2層協議体の設置には至らなかったものの既に設置されている第2層協議体の支援を継続した。
			実績	3か所	3か所	3か所	(2019) (2020) 既に設置されている第2層協議体における地域のニーズ把握やサービスの開発を支援するとともに、生活支援コーディネーターと連携し、その他の日常生活圏域における第2層協議体の設置を目指した。	
暮らしのサポートセンター設置数	生活支援コーディネーター及び協議体の活動を通じて、住民主体の活動の拠点となる「暮らしのサポートセンター」の設置を進め、当該地域のニーズに応じて、配食及び見守りなどのサービスを行うための支援を行う。	-	目標	1か所	3か所	4か所 5か所	(2018) 住民主体の「居場所づくり」「介護予防活動」「生活支援サポート」の3つの機能の拠点となる「暮らしのサポートセンター」が大津地区(10/11「みんなの家Asa居」)、大麻町板東地区(11/19「縁どころ」)、撫養町川西地区(11/23「むや」)の3か所で開設。開設に向けた支援を行った。	自己評価：△ 新たな暮らしのサポートセンターの設置には至らなかったものの、「暮らしのサポーター」による生活支援サービスの提供等、既に設置されている暮らしのサポートセンターの機能拡充について支援した。
			実績	3か所	3か所	3か所	(2019) (2020) 開設されている暮らしのサポートセンターにおいて、生活支援コーディネーター及び協議体と連携し、それぞれの地域のニーズに応じたサービス提供が実施できるよう支援した。	

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2017 実績	年度	2018	2019	2020	2018～2020年度 取組内容	自己評価や今後の 課題・対応策など
買い物や掃除、調理などの助け合いの制度の設計・実施 (有償チケット制や地域通貨など)	買い物や掃除、調理等、身近なニーズや介護保険サービスでは対象とならない困りごとにも対応できる助け合いの仕組みづくりを進める。	-	目標	検討			(2018) 地域の第2層協議体や地縁団体、いきいきサロン等各団体の意思により参画しやすいような制度設計を検討した。	自己評価：○ 各暮らしのサポートセンターにおいて改めて地域のニーズを把握し、有償ボランティア「暮らしのサポーター」による生活支援サービスの提供を開始することができた。
			実績	検討	実施	実施	(2019) 暮らしのサポートセンター(みんなの家Asa居、むや)で食事の提供をはじめ、ちょっとした困りごとに対応する助け合い制度を開始した。また、暮らしのサポートセンター縁どころでは、社会福祉法人との連携により買い物の支援を開始した。 (2020) 3か所の暮らしのサポートセンターと一体的に有償ボランティアの仕組み「暮らしのサポーター」について検討し、サービス提供を開始した。	
住み慣れた地域で安心して暮らしていける暮らしていける								
地域ケア推進会議の創設	地域の関係者の連携を強化するとともに、住民ニーズとケア資源の状況を共有し、市町村レベルの対策を検討する「地域ケア推進会議」を設置する。	-	目標	創設			(2018) 市医師会、自治振興会等の地域の関係者で構成される「鳴門市地域ケア推進会議」を設置した。 (H31.3/28) (2019) コロナ禍のため開催できなかった。 (2020) 「鳴門市地域ケア推進会議」をR3.3.11を開催し、日常生活圏域内の課題により市町村レベルの対策を協議し、フィードバックを行った。	自己評価：○ 今後も引き続き「鳴門市地域ケア推進会議」において関係者との連携を強化し、地域課題の解決に向けた資源開発や地域づくりや政策形成に取り組む。
			実績	創設	未開催	1回		
日常生活圏域での地域ケア会議の開催	被保険者の抱える様々な課題の解決に向け、関係する様々な支援者や関係者が検討を行い、地域の実情に合わせた地域ケア会議の重層的な推進を図る。	-	目標	5回	10回	15回	(2018) 各地域包括支援センターごとに開催するケア会議の活性化を図り、地域包括ケアシステムの構築を目指した。 (2019・2020) 個別ケア会議において出席者より個別事例における様々な課題を抽出し、それを生かした日常生活圏域での地域ケア会議を開催した。	自己評価：△ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため一部開催できなかった会があったため、目標は達成できなかった。そのため、個別ケア会議を行っている地域包括支援センターにおいて日常生活圏域での地域ケア会議の開催ができるよう取り組んだ。
			実績	0回	1回	5回		

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2017 実績	年度	2018	2019	2020	2018～2020年度 取組内容	自己評価や今後の 課題・対応策など
地域包括支援センター機能確保に向けた評価制度の導入	地域包括支援センター業務に係る事業評価（自己評価と保険者による評価及び結果の公表）を実施する。	-	目標	導入			(2018) 7月に地域包括支援センターの自己評価を実施し、「鳴門市地域包括支援センター運営委員会」において公表した。	自己評価：△ 「鳴門市地域包括支援センター運営委員会」での意見をもとに策定した「鳴門市地域包括支援センター運営方針」を活用し、今年度の評価を実施したことから、今後も委員会の意見をフィードバックしていく。
			実績	導入	実施	一部実施	(2019) 5月に地域包括支援センターの自己評価を実施し、2月に開催した「鳴門市地域包括支援センター運営委員会」において公表した。 (2020) 自己評価のみ実施し、コロナ禍のため会は開催していない。	
鳴門市在宅医療・介護連携推進協議会の設置	地域における医療・介護の関係機関が連携して、在宅医療・介護を一体的に提供できる体制の構築を推進する。	-	目標	設置			(2018) 「鳴門市在宅医療・介護連携推進協議会」を設置し関係者間で、今後の運営方針等の情報共有を行った。(H30.4/19)また、30年度実績を報告し31年度計画について協議した。(H31.3/28)	自己評価：○ 「鳴門市在宅医療・介護連携推進協議会」を定期的開催するとともに、関係者相互が連携し、課題解決を図る。
			実績	設置	推進	推進	(2019) 「鳴門市在宅医療・介護連携推進協議会」を開催し、今年度の取り組みについて協議した。 (R1.11/14)地域の医療・介護の資源を把握することを目的に「地域資源マップ」を更新・全戸配布を行った。 (2020) 「鳴門市在宅医療・介護連携推進協議会」を開催し、取り組みについて協議(R2.7.16、R3.3.11)。「地域資源マップ」の周知を行った。	
顔の見える関係会議の設置	職能団体から選出されたメンバーや関係者等による部会組織を設置し、グループワーク等を通じた信頼関係強化や連携推進会議との連携を図りながら、具体的な活動を進める。	-	目標	設置			(2018) 市医師会と介護支援専門員との名刺交換会を開催し、多職種交流につなげた。(H31.2/24)	自己評価：△ 「顔の見える関係会議」が開催できなかった。今後は、Web開催等、実施にむけて工夫していく。
			実績	設置	推進	開催なし	(2019) 在宅医療・介護に携わる職種を含めた多職種による「顔の見える関係会議」を目指し、そのための「顔の見える会議準備委員会」を開催した。(R1.12/19)準備委員会での意見をもとに、多職種による「顔の見える関係会議」の開催した。 (2020) コロナ禍のため開催できなかった。	

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2017 実績	年度	2018	2019	2020	2018～2020年度 取組内容	自己評価や今後の 課題・対応策など
鳴門市介護支援専門員連絡会の設置	市内の介護支援専門員同士のネットワークづくりや他の職種との連携・協働を進める活動を支援する。	-	目標	設置			(2018) 「鳴門市介護支援専門員連絡会」を設置し、事例検討会や研修会等を通じた介護支援専門員同士のネットワークづくりを進めた。 (H30.6/21・8/3)	自己評価：○ 「鳴門市介護支援専門員連絡会」の開催継続。当該連絡会が主催する多職種研修会を実施するなど多職種連携及び協働を支援する。
			実績	設置	推進	推進	(2019) 30年度実績を報告し31年度計画について協議するとともに、在宅サービス利用者の情報共有として作成した「あんしん連絡帳」を配布し、活用につなげた。 (R1.6/27)「訪問診療・訪問看護とケアマネジャーとの連携」について研修会を開催した。 (R1.11/19)	
医療・介護に関わる関係者への研修会の開催	医療・介護分野における職種の質の向上のための研修を地域の医療従事者の協力を得ながら実施する。	-	目標	開催			(2018) 医師による介護支援専門員対象の「糖尿病研修会」を実施。 (H30.10/17) また、「精神疾患」「介護者家族の支援」について研修会を実施した。(H31.2/14)	自己評価：△ コロナ禍に対応して、Web開催等を工夫し、医療・介護にかかわる関係者向け・医療関係者向けの研修会の開催を検討する。
			実績	開催	開催	開催なし	(2019) 介護支援専門員のほか訪問看護職員、地域包括支援センターにむけて「在宅医療における薬剤師の役割」について研修会を開催した。 (R1.12.4) また、「在宅医療を食で支える」について研修会を開催した。(R2.2.20)	
							(2020) コロナ禍のため開催できなかった。	

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2017 実績	年度	2018	2019	2020	2018～2020年度 取組内容	自己評価や今後の 課題・対応策など
医療・介護連携セミナーの開催	医療・介護従事者を含め、市民に広く開かれた市民公開講座を定例的に開催し、在宅医療やその機能等の紹介や在宅医療・介護連携の必要性などの普及啓発に取り組む。	-	目標	検討	開催	→	(2018) 「鳴門市在宅医療・介護連携推進協議会」において必要性等を検討した。 (2019) 認知症及び医療・介護に関する理解を深めていただく契機として医療・介護従事者のほか市民の方を対象に映画「ケアニン」の上映会を開催した。 (2020) コロナ禍のため開催できなかった。	自己評価：△ コロナ禍に対応して、Web開催、ケーブルテレビでの放映等、工夫し、普及啓発を実施する。
			実績	検討	開催	開催なし		
介護者家族向けの支援事業の実施 (排泄障害や摂食嚥下への対応など介護技術の向上に向けた取り組み)	介護者家族の身体的・精神的な負担の軽減を図るため、在宅生活を支えるサービスや相談体制の充実、多職種連携による在宅環境等の調整等サポートする。	実施	目標	実施	→	実施	(2018) 家族介護教室の開催等を各地域包括支援センターへ委託した。また、民生委員児童委員有志等による「介護者家族の会」と連携し、介護者家族への支援を進めた。 (2019・2020) 家族介護教室の開催等を各地域包括支援センターへ委託し、実施した。また、「介護者家族の会」と連携し、介護者家族への支援を進めた。	自己評価：○ コロナ禍により家族介護教室の実施が計画どおりできなかったが、積極的な開催を継続して促す。また、「介護者家族の会」における支援は引き続き行っていく。
			実績	実施	実施			
誰もが尊厳をもって暮らしていける								
認知症初期集中支援チーム対応件数	認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供をするため、基幹型地域包括支援センターに設置した「認知症初期集中支援チーム」の活動を強化する。	19件	目標	15件	20件	25件	(2018・2019・2020) 「認知症初期集中支援チーム」において認知症サポート医と連携し、認知症の初期の段階で認知症の人やその家族に対して個別の訪問を行い、適切な支援を行った。	自己評価：○ 引き続き認知症初期段階の支援を行うとともに、その後のフォローを含めた適切な対応を行えるように支援を継続する。
			実績	12件	19件	10件		

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2017 実績	年度	2018	2019	2020	2018～2020年度 取組内容	自己評価や今後の 課題・対応策など
認知症サポーター養成数	認知症についての正しい知識と理解を啓発する。	5,878人	目標	7,000人	8,000人	9,000人	(2018) 市内の小中学校でサポーター養成講座を実施し、キッズサポーターを養成した。 (2019) 8月に全鳴門市職員に対し認知症サポーター養成講座を実施するとともに、市内小中学校への出前講座のありキッズサポーターを引き続き養成した。また、認知症キャラバンメイト交流会を実施し、サポーター養成数増加にむけての意見交換を行った。(R1.6.14) (2020) コロナ禍の影響を受け、養成講座の実施は減少したが、養成したサポーターを対象にした「ステップアップ講座」を実施し、「チームオレンジ」の立ち上げを支援した。(R3.3.5)	自己評価：○ コロナ禍の影響を受け、養成者数は目標値に届かなかったものの、サポーターを対象にした「ステップアップ」講座の実施するなど認知症の正しい知識と理解の啓発を行った。
			実績	6,859人	8,130人	8,434人		
認知症ケアパスの作成・普及	認知症の状態に応じた適切なサービス提供の流れを示したガイドブックを作成し、認知症の方やその家族等に周知する。	-	目標	作成・普及			(2018) 鳴門市医師会と連携し、認知症あんしんガイドブック「なると認知症ケアパス」を作成・配布した。 (2019・2020) 市広報等において普及啓発を図るとともに、認知症高齢者等SOSネットワークの構築に活用した。	自己評価：○ 「なると認知症ケアパス」を活用し、認知症についての理解と利用できるサービス等の周知につなげる。
			実績	作成・普及	普及	普及		
認知症高齢者等SOSネットワークの整備	認知症高齢者等の見守り及びその家族等への支援を行うため、地域のネットワークを整備し、関係機関等の支援体制の構築を図る。	-	目標	整備			(2018) 「鳴門市認知症高齢者等SOSネットワーク会議」を設立(H30.7/4)。関係機関等の支援体制の構築を図った。 (2019) 「鳴門市認知症高齢者等SOSネットワーク会議」の開催(R1.9.5/R2.2.12)をはじめ、ネットワークの構成員である地域支援推進員等による周知啓発を行うとともに、関係機関等と連携を進めた。 (2020) 「鳴門市認知症高齢者等SOSネットワーク会議」の開催(R3.11.18)において、行方不明高齢者の事案についてネットワークの構成員と共に検証を行うなど、さらなる連携を図った。	自己評価：○ 引き続き「鳴門市認知症高齢者等SOSネットワーク会議」を開催するとともに、更なる認知症高齢者等の見守り等の支援につなげる。
			実績	整備	推進	推進		

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2017 実績	年度	2018	2019	2020	2018～2020年度 取組内容	自己評価や今後の 課題・対応策など
徘徊模擬訓練の実施	実際に地域で模擬の行方不明者の捜索を行い、問題点等を検証することで、認知症への理解や地域の認知症高齢者等の見守り意識の醸成を進める。		目標	5回	6回	6回	(2018) 日常生活圏域ごとに、認知症高齢者等への声かけ訓練を実施した。 (9/22緑会、10/6おおあさ、11/24やまかみ、12/10ひだまり、12/11貴洋会) (2019) 日常生活圏域ごとに、認知症高齢者等への声かけ訓練を実施予定。さらに基幹型地域包括支援センターでは屋外訓練を実施した。 (12/5ひだまり、1/14貴洋会、1/21緑会、2/4やまかみ) (2020) コロナ禍の影響を受け、日常生活圏域ごとの声掛け訓練の実施が難しく、地域包括合同の屋内声掛け訓練(R2.11.30)、市で初めての屋外声掛け訓練(R3.3.5)を実施した。	自己評価：△ 新型コロナウイルス感染拡大防止を図るため、目標を下回る結果となった。今後も日常生活圏域を越えた訓練や、検索メール配信サービスとの連携など、徘徊模擬訓練のステップアップが図れるように支援する。
認知症高齢者等検索メール配信サービスの運用	認知症高齢者等が行方不明になった場合に家族が警察等に届け出ると、捜索に協力する個人や地域の事業所、関係機関に一斉に情報が伝えられ、地域のネットワークで早期発見に努める体制を整備する。		目標	運用開始			(2018) 行方不明高齢者の情報を協力員や協力機関にメール配信して捜索するサービスを11月から開始し、地域の支援者や関係団体に制度の周知を図った。 (2019) メール配信実績は1件あり、警察と連携して対応した。また、平日や時間外にでもスムーズにメール配信できる体制を整備した。事前登録者や捜索協力者を増やすため、各種講座の開催時や広報紙等で普及啓発に努めた。 (2020) メール配信の実績は3件、事前登録者は30名となっている。地域のネットワークで早期発見につながるよう、メール受信登録者の増加のために様々な場面で周知・啓発を行った。	自己評価：○ 引き続き周知・啓発に取り組み、認知症高齢者等の早期発見に努める体制の整備を推進する。
			実績	運用開始	運用	運用		

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2017 実績	年度	2018	2019	2020	2018～2020年度 取組内容	自己評価や今後の 課題・対応策など
社会参加しながら生きがいをもって暮らしていける								
老人クラブ登録者数	鳴門市老人クラブの育成を通じ、高齢者の積極的な地域参加、生きがいや健康づくりを進め、高齢者福祉、地域福祉の向上を図る。		目標	2,800人	2,800人	2,500人 2,800人	(2018・2019・2020) 高齢者の自主的な交流の場である、いきいきサロンの設立・運営に向けた単位老人クラブの取り組みを促し、支援した。	自己評価：△ 老人クラブ登録者数は年々減少傾向にあるため、いきいきサロンとの連携や地域での活動時における加入促進など継続的な支援を図る。
		2,804人	実績	2,638人	2,469人	2,358人		
介護サービスの質の向上及び適正実施に向けた取り組み								
認定調査件数に占める事後点検の割合	認定調査の内容について、市職員が書類等の審査を通じて、事後点検することにより、適切かつ公正な要介護認定の確保を図る。		目標	100.0%	100.0%	100.0%	(2018・2019・2020) 認定調査票を全件点検し、評価軸の定義に沿った選択がされているかを確認するとともに、二次判定の要素である介護の手間を表す特記事項の記載内容を確認した。	自己評価：○ 今後においても認定調査票の全件点検等を行う。
		100.0%	実績	100.0%	100.0%	100.0%		
居宅介護支援事業者数に占めるケアプラン点検を実施した居宅介護支援事業者数の割合	受給者が真に必要なサービスを確保するとともに、その状態に適合していないサービスの提供を改善するため、ケアプランの全件チェックによるケアプラン点検を実施する。		目標	100.0%	100.0%	100.0%	(2018) 9月に在宅サービス利用被保険者のケアプランの提出依頼を行い、全件チェックを実施した。 (2019・2020) 8月に在宅サービス利用被保険者のケアプランの提出依頼を行い、全件チェックを実施している。	自己評価：○ 今後においてもケアプランの全件点検を行う。
		100.0%	実績	100.0%	100.0%	100.0%		